



南總里見八犬傳第九輯卷之十七

東都 曲亭 主人編次



第百十回 無勳功を譲りて 親兵衛法會へ赴く  
賞祿と後にて 安房侯寒御を温む  
却説荒川清澄們の大江親兵衛と共侶の館山城の重郭と那這と巡檢を。  
那活路ある邊へ来て、茲處と向ひ立寄りて、其果を大驚き。石ありて半分へ埋  
まつて、便是地道の門戸老石の二戸が裂けた。毫もす跡も無りて、清澄們  
疑ひ立て、親兵衛孝嗣逸時景能次、困太卿三們の五六名、俱ひ這地道より城へ  
入る。毎々訴り思ふも、倘ち地方の違る處と找を近見て、件の石をばらくと又そぞ  
ゑ。裂ける處がぐる。舊の如ふ合せん石の真中筋肋ありて、才ある迹送り。親兵  
衛急ふ。次圖太と卿三を走らす。嚮か入りて城外の地道の石を下りて、一霎時

あそから夢。却親兵衛。お報をす。那里的石も這裏の石。裂けむ處愈合。又入る。づもひり。とお親兵衛領。清澄们ふうち向ひて既あ示一傍り。前後の石門裂開せ。嚮か出への自在。我靈王の應驗されど。畢竟役優婆塞。と伏姫神の冥助を。き。這石又舊の如く。す。一片未合。と。ひくある。ひく。偶裂れま候。あふ。賊徒。あよ。脱身。網を漏す。も。見。然る便。を。ゆ。則御方の大利。神助冥福。まく。奇。世不復治易。る。あんや。家大業然と。齊一感嘆。き。登時親兵。衞入。す。這活路。す。も。政木楓の忠告。昔の城主。作り。と。後。お。這巨石を。あ。塞。だ。ト。う。知。れ。ど。何等の故。お。塞。だ。や。お。墨。を。漏。お。れ。ば。今。ゆ。迷惑。勘。か。を。お。猪。の。者。り。あ。と。隨。従。の。雜。兵。們。を。召。近。す。日。ヨ。母。す。お。知。れ。り。と。の。者。き。う。お。荒。磯。南。弥。六。ヶ。第。阿。弥。七。り。多。夜。南。弥。六。ヶ。館。山。城。ふ。入。そ。素。藤。ふ。瘡。を。負。て。那。身。の。生。來。介。共。侶。戦。殘。の。事。の。風。聲。を。あ。も。傍。へ。寧。一。よ。素。藤。が。壇。を。怕。れ。て。家。

乗宅眷と俱。殿臺を。寄隊の陣営。身を。寓。て。下。告。て。愛顧。と。請。お。清澄肇。て。南。弥。六。ふ。一。個。の。弟。あ。と。阿。弥。七。三。男。増。松。を。南。弥。六。ヶ。養。嗣。ふ。先。約。束。を。す。詳。ふ。少。知。く。仔。細。ふ。及。が。妻。を。も。子。を。そ。が。伝。陣。營。ふ。留。め。て。枝。持。ち。れ。あ。の。日。阿。弥。七。三。雜。兵。ふ。ち。交。り。清。澄。が。隊。ふ。後。ぞ。俱。不。城。内。ふ。入。る。と。ゆ。保。當。房。中。ふ。存。件。活。路。の。監。觴。と。芳。檼。親。兵。衛。向。よ。及。び。と。あ。と。報。を。す。小。可。曾。祖。の。時。す。と。這。夷。瀬。郡。す。並。普。善。の。接。の。村。長。を。ひ。ふ。大。父。の。時。お。家。衰。て。寒。民。ふ。做。り。ふ。と。些。な。ぐ。の。舊。記。も。残。り。家。の。口。碑。ふ。傳。へ。る。と。も。ひ。こ。と。自。今。お。尋。ふ。より。て。思。ひ。か。ひ。だ。抑。あの。館。山。の。城。ひ。昔。上。總。公。平。廣。常。主。別。館。を。ひ。い。ふ。有。一。年。這。頭。の。平。山。う。り。山。屢。脱。今。の。副。門。の。外。面。を。岡。う。り。出。て。海。入。る。路。約。莫。三。町。う。づ。洞。ふ。做。り。け。れ。城。内。ら。悄。寥。活。路。不。宜。一。かる。べ。と。當時。の。家。臣。們。愛。懽。び。と。單。廣。常。主。六。妙。と。せ。一。云。老。黨。か。宣。す。世。武。士。主。者。の。敵。ふ。攻。れ。て。篠。城。え。ふ。命。運。其。首。ふ。

窮る潔く戰役未だ。然る豫より城内へ活路を為れる命を免れんと飲ひ度て准備ふ。そ。躬方の歩る便あれば敵も亦入る便あり。出没素より安定する山賊の住る洞くらにて。然る准備があるせあ。武吉家要見る者へ見ゆ升り悉穿崩して埋め盡。无益の事ふ民を勞き。雜費も亦勘う。這四下の岡の邊へ大なる石隕れ。殊勝れと擇え。前後の洞口を塞ぐ。あの差世さわえ見人の疑ひと暮りやせ。ま役の農夫を誠り。秘よ風聲もぞ全と叮寧ふ命をもとめ。一二の老黨と近習の外ほかの意と知り。小可こ遠祖とお當時ご人殿じんすけあざえ。人殿じん死もひより。先祖とお接村せつそん退隱たいひんして子孫ししゆ小可こ毎至るまで四五世裏うらり。ひりあ。大父おやぢの時兵火ひょうかの爲ため。家系けいけい燒亡やがれ。具ふ知り。ひりと親兵衛ちんびやゑうらうらて。そちの久紀異聞きよぶん廣常ひろな別館べっぴょく脱路だつじゆと嫌きらひ。我義兄弟がぎとう大山道節だいさんどうせつ火ひ。道みちの御書ごしょと燔棄はんきと日と同うを語かたるべ。も今阿弥七徵あみしげせ。我疑がくひと解わかく。

あらんや寔小珍重まことわざう。顧嘆賞くわんしやう。清澄きよすみも亦歎感かんかんして神佛冥助しんぶつめいすけ不可思議ふしき。畏きる。中なか清澄きよすみ。親兵衛ちんびやゑ不亦恁まことにと阿弥あみ七しちが素生すうじゆ。のゆさへゆる隨つづれ解示かいしせ。親兵衛ちんびやゑ点頭てんとう。現那兄なにわい。這弟このへい。南弥なんみ六ろく義俠ぎけい。之の館やかた與よ小戰役こうせん。後あとすくらんの送恨そうこんのゆ。然しか豫任增松よひむすめのまつと養嗣やうしの約束やくそく。甚妙じんめう宿老しゆろう。凱陣かいじんをかう。そ長髮ながひを雪ゆきえ上あむ。必恩賞ひおんしょう。とくとて清澄きよすみ仔細さいさい及び。そあらぬてひ巡檢じゅんけん。且閣よつだく。妖賊伏誅ようしやくの趣き。注進しゆしん。このき。這方なほ來き。そうち連立れんてき。本城ほんじゆ赴はく程てい。友勝良千ゆうしようせん。龍置りゆう。と。獄舍ごくしゃ。既すで。燒亡やがれ。そ。かう。そ。うち。走馬場しゆまば。新あら壤じよう。小高ちよだか。裝な。雛松ひなまつ。栽そ。土饅頭どまんとう。親兵衛ちんびやゑ五ご。那海松井軒なみのいわん。遇あ。悄地しあひ。埋う。と。之の。南弥なんみ六ろく首塚しゆづか。茲これ。想おも。清澄きよすみ。喚よ。住す。城しゆの良民りやみん。尋ね。知し。者もの。答こた。云い。之の。塚づか。野幕のぼく。沙鷗さがい。太お。亡骸むがい。瘞うず。と。賊徒ぞくと。思おも。かう。と。實じ。猜うなづ。かう。

卷之二

かぐもひそつ  
軒遇ハガ悄地よりみせ。荒磯が塚ふトとふ親兵衛點頭て阿弥七を召近フ。是沙  
兄の塚へ宣く是を祭るべ。我も廻向をもがれと先阿弥七を拝みて然而清澄と共に  
楫にて目礼してけれ。高宗以下の士卒を以て次圈太卿ニ至るまで俱その塚をうち朝  
ひ。合掌を念佛せざるもみけん。阿弥七は只辱き坐感涙の找むと覺む其頭をやりて  
良民きへ咸感激して鼻うち稼れ老も弱も涯あれが竟ふ逝く身と忠義の譽を惜  
命と捐てこそ榮と児孫ふ貽まられ死映ありと思ひ。恁而荒川清澄を親兵衛と兵  
侶ふ有功の諸士を領く城の正聽を集會を登時清澄は親兵衛の席を譲んとく。叮  
寧すよ請找めと親兵衛敢從ひ。詞急迫ち論ぎ。燕毛とありて序がれ。我十九歳の  
絶命也。荒川主の大父不老一又尊卑とあそひとて荒川主の討隊の大將即館の  
御名代を。我ハ臨時の副将へ然るを小功あればとて席を犯さ。宿老と獨裁如く做ひの  
御名代を。我ハ臨時の副将へ然るを小功あればとて席を犯さ。宿老と獨裁如く做ひの  
是君侯へ大不敬僭稱是より甚じて。決を促すと推辭むと清澄推

禁め。理論の寔然ると。軍旅の序次へ非常要功ある者へ上在り。功名著下の  
在る。那剛臆の坐の如。後三軍合戦の。序次を做す。誰も  
又命と惜。各主君の充與。後の戰功を励んや。愚老の賊徒誅伐の仰と稟れども  
す功。因て重て館より和殿。征伐を命ぜられ。立地の大功あり。倭夷が主客地と易く。今  
日討隊の大将。大江則和殿。愚老の當副將。倭夷が席を譲る。和殿  
于て非礼。誰も僭稱。ともいひ。然と謙退せられ。始愚老を羞殺。もとで我  
意不儘。とひを親兵衛。美引。云々と論じ。争ひ果て。高宗。逸友。雙  
方と推制。相和解。大江氏の謹慎。臣る者の本。彦べく。荒川主の謙遜。辭讓。  
世の彖宰の龜鑑。と。あの矣。我們證人。枉て。且同席。事と議。益甚だ  
辯讓。時を移。不便。アソブ。と。又。友勝良干。及逸時。景能。共。侶。勸  
矣。親兵衛。竟。已。口得。清澄。と。共。上座。在。是。より。高宗。逸友。有功。

諸士次第と追て。左右両側に盤列れ。但孝嗣と次園太門の家臣の列あるべからず。故意遠侍ふ在り。當下荒川清澄へ。親兵衛と商議して。稻村龍田の兩大城へ。妖賊伏誅の趣を。安く立え上んを。二三士ふ筆せ把りて。素藤井と生口の賊徒の姓名を具ふ注一通。又。犬江親兵衛が大功を首ゆ。友勝良干。高宗逸友。景能逸時。們が忠戦又政木大全。孝嗣と次園太卿。三が親兵衛が從ひ來て。軍功あり。支の顛末を來歴さへ寫一載。準備亟乎整す。家老隸の番士きは。那覇内葉四郎も。這回の清澄が従ひ陣中。在る。よて隨即件の葉四郎と詰茂嘉橋が使を課て。先稻村にて遣す。親兵衛も亦てつる。てあより。孝嗣と次園太卿。三が親兵衛が從ひ來て。軍功あり。支の顛末を來歴さへ寫一載。准備亟乎整す。家老隸の番士きは。那覇内葉四郎も。這回の清澄が従ひ陣中。在る。よて隨即件の葉四郎と詰茂嘉橋が使を課て。先稻村にて遣す。親兵衛も亦てつる。てあより。孝嗣と次園太卿。三が親兵衛が從ひ來て。軍功あり。支の顛末を來歴さへ寫一載。自呈書一通を書寫げて。昨日照文が借用ある。兩個の夥兵を使ふ達て。俱ふ君所へ。まわくせけ。八程の清澄。殿臺を守らる。士卒と城小昌取へ。那里不要るを陣営。毀を神領を掃除せしめ。且乙接村の阿弥七们及素藤が駆入れる。城内の良民と女毎と牛一遣りく。各家ふ還まると。猛可ふ士卒を部あて。是等の所要を以て。高宗逸友

頭人。うち。まろやかに窮民の賑給の美いをうた。親兵衛ゆき清澄が勧めて施。行をいそぐ。清澄頭どうり掉りて。その美ハ愚老も豫より心屬する。まことに。素藤们を追放の折。這館山の城へ。和殿とりく城主ふされ。後少く亦番士を居れて。重要金ある。稲米まろ。皆是上のひん東西ある。素藤が復叛ふ及び。他が掠奪をさう。と。まざり下知ふ。依らぎて。窮民へも賑へ。罪ぬまいた所。幼子を。とふと親兵衛推返。を。晚生黄口に孺子とて。懲り鳥許えども思ふてひだ。不忠ふ似ち。抑歲が豊凶。中。國ふ治乱をも。是仁君の善政。す。奉る吏人。自。禄と思ふ。民と意とせむ事。小衍。まん與。小分量授與。不時日糧り。六日の菖蒲。か。做らゆ。和漢同日の通病か。識者の浩嘆。ふ。在り。這城附の米錢。そ。かん下。知ふ。依らぎて。施すか。もあ。餘都。素藤が。民を掠りて積一東西。今それを。も。散き。良民家ふ。疊る。も。何ぞ。明日よりの露の命と。敷糸ぐ。を。の。義を以罪る。

獨仁ひきのみが上うへあらん願ねがへ賢老けんろう。馳て轍よ的の危窮けんこうと救きくて上の仁政じんせいと普ひふく民みんか知しる。玉  
と詞ことを盡つく、諫いさめくべ。清澄きよすみ言下ごんげ感服かんぱく。遂さふそろ譏ま讐まう。良干逸時景能よしひとよじゆう。  
當時城附とうじやくつきの米穀べいこく金錢きんせんの多寡たか寡まんがを向むかひ勘辨かんべん。倉廩くらうらんをうち開ひらき。餘財餘分よざいよぶんの米  
穀べいこくある。賑給送まつまわ。阿弥七あみしち並なま良民よしん們べ天あま無なき地ぢ喜よろこび。擔たんひ連つれて來くわら  
也よ。舊所きよしょふ安堵あんとありけり。然しかば又また親兵衛ちんびやくの是これも。ゆふ管かんらひて憶おもぞ逗留とる三日及およびて。  
四月十五よし日ひ。尚事じょうじの退しりぞくとも。尚事じょうじの表あひくても。尚事じょうじの左側さく。向水五十  
丈じょう。枝獨鈎素えどひ吉よし。生拘いきのしの賊徒千餘名よゐん。乾兒こひんら。俱ともふ館山くらやまの城しろ來くわて。  
親兵衛ちんびやく並なま逸時景能よじゆう報ほる。小可こが毎まい約束あくしゆくの。船ふねを那な這なの浦曲うらまき歇いかて。大江主おほえぬし  
の乗のせ。歐伏おふくせ。桶捕おけとり。二十餘名よゐん。余剛よがた。連つら。矢場やば。海かい。推す。置おきて。  
殺ころる。親兵衛ちんびやく逸時よじゆう。門門の拵そなへを讀よめ。勞なぐり。清澄きよすみ告ご。清澄きよすみ。



九郎と殿を捕て。素藤を索と獄する。その功和殿の亞ふあり及次國太卿三も俱ト是軍功あり。和殿、稻村へ伴ふて。宿主上焉に重用あるべ。あの戻りと恩みの多き事。となり親兵衛うち等。政木石龜们がるべ。晚生只顧薦め。かど。他们へ七大士不先もて。仕途不甚多く欲せ。あくよ。理り氣れ。姑且折を爲さん。且晚生。比七大士と招會の仰を稟て。稻村を退ひて逆旅を赴。又更不又妖賊對治の御教書を成下され。そのむん使登崎氏不料。も両國河を相逢ふとをひそけれ。隨即征伐を先ゆて。賊徒を討。夷ばく。邊莫七大士と招會の先命へ。はぐ栗。さ風ふ。并と照文與四郎。不任せよとある。仰ひ傳を。且鄉勅。呈書と。その義と。やえ上る。そく。容れねと。仰まる。七大士們と。共侶。帰參。我宿望丈。義兄第。们ふ先。も。恩賞と。ゆまく。欲せ。意。不自餘の七大士。必結城。來會。大法師の。在る。本月十六日。法會。今日より。只一日。途遙。期。不。值。とも。その路。次。を。も。迎。君命を達す。奴賊既不對治。當城無異。民安けれ。晚生姦不。在。

賜り一金も路費医くもひばる是のあ役預けまくん。但一大全と次圓太も浮浪の人。されど義士でひがみを輒く受べて然とく是さへ返一もくが長者の好意を破るふ似て因て晚生收め措一折をもて傳達せ。去向をひそひに。餘談を異日帰参の折あらひも聲中て身の暇とあり。とくに應じて十金三重表を懐ふ夾め退定。程より處か等へる孝嗣次圓太卿。三ふうと告げ併ふ立去んとせ。程ふ清澄高宗逆友。赶携りて袂を披ふ。いそがゆべ理り氣をも留別の盃を儀をうごと薦めと欲を。而妻時住つむか。とくに廻逸時景能も共侶不走來て浦邊の舟まで送んとて前立後不携りて放々ともあくばり。と親兵衛聽き頭と掉りて平安を異の折るべ。桺を続ね水と沃ぐ。送行の差を致さる。妖賊傳囚ふすをとおも残燼を冷やす。願お各宿老を帮助て當郡と理め。私情今之急務はあらむと論て毫も従ふ。卒とくろふ孝嗣们も目と注一袖を拂ひて飄然とて出でゆ。程ふ孝嗣次圓太

卿三ふ處く清澄門別れの礼を盡しも果ざず。外面ふ立て。後れとくぞ親兵衛と。赶々俱子從ふる。吉最酷う急迫。まく清澄並ふ諸士们ま徒呆然と目送りけ。懸而大江親兵衛の孝嗣次圓太師弟とおて。すき館山の城と立て浦邊を投ふ。程ふ長を肆月の日暮春果て。望月の影限もきれ。磯山傍の迷ひも甚。既ふと船を五町許あるえと思ふ程ふ素を吉が蕉火と振照して迎ふ。來ゆる逢ひ。登先ふ立て故の浦曲を案内をす。大家他を勞ひて。とく路次をひがみ。あ夜酉半刻の左側ふ齊片一船ふ衆よけ。船只五十三太が心と用ひ。夕餌の設あ。余程ふ五十三太。今戸火盤を柴折り燒き。乾兎の筆高士と給事ふ達て。親兵衛以下の客人ふ飯を置き。程ふ親兵衛の五十三太弟兄ふ。這里より水路を結城へ赴く。遠近を問試へ。五十三太答て。然り江戸より結城十六里ある。その浦より西園河まで。既ふ知せぬがごと。

卷之六

卷之三

意ふかく至る。漂母の飯ふ勝ふ事。願ひに收め。明日よろの路費ふ用ひあく。と諭ま我  
孝嗣うちにて。そも思ひけえ。我們和殿が従ふ。附驥の小功あり。よ。圓主忠と盡  
あふあく。又荒川翁の與。やもせび。口の義の一字と恩をもて。和殿の帮助あり。と。那翁  
よ。贈ら。東西ありとも受べ。和殿ちの意と猜。う。受て。我們を贈り。則和  
殿の貢物。あく。え。推辞。う。と辱く。ひ。忘て。傍を。う。孝嗣かのどく。え。次  
國大。も亦辞ひ。お。教ひ。演受戴にて。俱不金を。志。收め。慄而早飯果。う。五十三  
素。ひ。吉嵩。高工。毎。亦復船を走ら。て。荒河。漕。入れ。現。瀬。船。あれ。勢ひ始。のどく  
を。遮。莫伏。姫神の寔助。や。あり。思ひ。う。と。阜。く。午。東。ひ。ま。ぎ。う。南宿の邊  
來。あ。親兵衛。勒。肚。よ。圓。金。兩。食。ま。て。午。亥。ひ。ま。ぎ。う。南宿の邊  
あ。瑣細。東西。う。折。周。ふ。食。ま。て。這。回。和郎们。グ。幫助。ふ。よ。そ。恩。ひの隨。う。幸。ひ  
る。そ。の妙。び。の。す。志。の。異。日。船路。安房。來。逸。時。们。を。訪。ひ。せ。が。そ。折。我。再。會。え。

兵衛が大功を讃えられて。七大士招會の使め照文與四郎よしむら。親兵衛おとこべゑ。清澄きよすみ。们と  
共とも居ゐ稻村いなむらへ参まいる。倘性急ときわざそそぎそそぎ意おもてふ儘まごて封くわふくわとあり。是  
て下さの四ヶ條よつがじょう夷ゑ濱はまの周民賑給しゆみんちやうきの事。又館山の城じやう。小森高宗田税たけむね逸友いつともを番ばんあ  
頭人とうじんとして土卒五百名ごひゃくめいを留とどめて守まつらを。又清澄きよすみ。友勝良干景能ともかつらひでかげと共とも。素藤すとう  
下さ生拘なまくの兎黨とひだを率そなへて徐しおふ凱陣かいじんを。但ただし一礪い時願八平田張金作ぱりたんじょう。奥利本膳おくりほんぜん。奥利  
狼ろう之の外ほか稻村いなむらへ牽くいびひ謀ぼうを殺ころ者しゃへこれを謀ぼう。追放せうほうを殺ころ者しゃへ追放せうほうを。民みんの煩うきい  
らをあよ淺木碗九郎あさぎわんくろう。仙田麻嘉六せんたまかの外ほか首級しゅき由右同断ゆうどうだんを乞こう。とあくせんが。清澄きよすみ。即便そくへん  
高宗逸たかむねいつ。友們ともだち。兵ひ詮議じみぎ。次つぎの日ひ賊徒ぞくとの兎暴とひのうを謀殺ぼうさいを。餘鳥食よしのとりの難ひがい。吾罪われのざい  
輕かるに追放せうほうを。有あり志し程ほ素藤すとう。暴虐ぼうぎやく堪たま難ひがい。隣郡となりぐんへ走はり。夷濱ゑはまの富豪ふうごう  
民みん。衝ぶつ々ぶつ變かわり。又那梶野ながかじの。桑門そうもん。諏訪すわ兩社りょうしゃ八幡はちはたの神主じんぬし。稻村いなむらよりかづ来て各職かくしょく  
就つ。夷濱ゑはまの浦波うらなみ静しづか。館やかたの山風枝さんふうじを鳴なま。郡民安堵くにみんあんと。五七日ごしだ歷ひ。

俱て水行羊下總へ赴け心標眼前を見しるや。不思议事也。も崖畠を上へ妙  
椿狸の奇皮と。雍尾龍襄の玉をもあわせ。這狸兒の箇様々々と。昔年龍田の近郊を  
八房り天と享養け。事の始より玉梓が餘怨那身の貴縁と。當家あ出でと做して居りを。  
政木孤ヶ親兵衛。告うちとく奇談の顛末。开も靈臺の威徳より玉梓が餘怨解脱と。  
妙椿狸の即死ある。そぞ亡骸のもの中ふ。如是金剛生發菩提心の八字見れ。事はより先  
政木孤ヶ上野の原を。孤龍ふ化て升天の奇特まで。漏をとく。告宣もあを義成主と事  
毎。故驚奇感嘆大をす。身邊不居る三家老近習も。俱の廁聞と。駭嘆せむ。うのを。  
耳新きを思ひ。且て。義成主。清澄不宣やう。妖怪賊徒一時ふ亡び。當家吉翁  
泰の至る。則。大江親兵衛。神の眞助と。ゆる。その亦。勝敵と。壓え。覧の一宇を  
守する。あらま。尋く。士卒と損れて。も全勝。ゆる。而。櫻田も。うて。條々。又詳ふ。稟上  
よ。然も。おどりあらむ。先友勝良干。逸時景能們を召す。と。召すと。見參と饒。と。おどり。

松倉氏元奉りて即便仰と爲ゆ。武士者時運不よ。勢ひ竟不究と敵の爲小擒  
身を心か似て恵スアシ。左馬浦安牛之助友勝登桐山八郎良子。神火の冥助。獄  
舎と共く名ある賊徒。生拘て會稽の恵と雪や一事。在奇特。思召宣く本領戎  
安堵。又田税戸賀九郎逸時吉屋八郎景能。城と毎ホト命苟免れ罪と他御避  
在。饒えを越度れども。今番大江親兵衛。從て。至敵城に入火を放ち。且仙田麻嘉  
六を相較ひ。おあがみ。又そ前夜西園河。親兵衛と遂に。斬折五十六人。と相計く快  
船と束の間。敵地近づ。船とも。僧が親兵衛。古手書ふ。恩免を請うる。依ら  
則。這戦の忠戦。ちと。那先非。償ひ。先館山の城の頭人を罷れて。その餘ひ。舊の恩の閣  
は。清澄。未従。龍田。まゐぢ。老侯が。礼を。票上よ。と仰渡。まき。が。友勝良子。逸時  
景能。かそく。恩命。と。辯。と。退りぬ。あけ。公程。あ荒川。清澄。ひま。私宅。と。アヌ。事件の四  
士と。伴て。馬を。早め。瀧田。詣て。義実。朝臣。お見参。大江親兵衛。大功。素藤们。伏

誅都。稻村殿。お笠を上方。條々。一事も漏。お告。宣。妙椿狸の奇後度。と。龐襲の手の  
由来と解て。憲覧。備。義実王。欲。と。又。驚。坐。太。王。皮。と。亦。肉。て。原來。那妖  
尼。昔。八房の天。羊。娘。娘。富山の牝。狸。で。あ。那。折我。尚壯年。そ。件。の。大。と。愛。も。あ。  
狸。と。字。ハ。大。か。従。ひ。里。お。往。下。う。お。が。お。重。見。お。大。ま。前。兆。あ。と。賢。達。戲。語。と。思。ひ。れ。い。  
悔。く。の。恥。一。た。批。言。寔。不。疎。齒。う。た。狸。の。古。字。ハ。身。か。従。と。大。か。従。お。後。の。夕。今。も。猶。通  
用。を。况。玉。梓。が。餘。怨。賞。縁。と。當。家。お。崇。と。做。て。お。神。を。お。身。の。知。り。き。り。亦。我。口。の  
過。き。を。お。筋。お。今。玉。梓。が。餘。怨。解。脱。の。折。爲。て。狸。児。も。共。命。終。り。お。亡。骸。の。毛。中。お。經  
文。の。偈。句。見。れ。ハ。正。お。是。親。兵。衛。が。持。る。靈。王。の。奇。特。そ。畢。竟。役。優。婆。塞。の。方。便。利  
き。益。を。う。ん。ど。お。孤。龍。の。忠。告。達。お。ぐ。と。然。お。洲。嶠。の。巖。室。代。香。の。使。者。と。お。あ。う。ま。ぐ。又。這  
妙椿狸の皮。ハ。逢坂の。岡。の。あ。ま。と。采。花。物。語。の。卷。・。お。あ。る。お。れ。る。那。岡。寺。の。牛。佛。の。例。も。お。れ。ば  
お。華。慢。お。為。ら。ま。大。山。寺。へ。寄。捨。其。を。お。後。方。お。候。る。小。溪。日。と。鮑。船。貝。六。郎。を

卷十七

棄て未を令る。有僕れ親兵衛が帰城の折まで姑且沙汰及ばざ。夫の義濃  
を御示ね。但忽諸ふ處へ夷濱の民の艱難へ他們へ年來素藤主僕の奢  
侈淫樂の為ふ責令され。食父子と賣り妻と鬻。富る財宝子女妻妾と奪  
き。よろづ分鏡の全く歩く。下知を高宗逸友ふ鴻よか。と仰考。四家老們を  
那里的民ふ賑給と。ひじゆと。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。  
濱一郡ハ税斂と二稔免まべ。下知を高宗逸友ふ鴻よか。と仰考。四家老們を  
羨慕ひ。僕のどくお初ひけ。是より功ある士卒ハ理義と感。下恩賞。戎望を夷  
濱の民ハ枯る苗の甘雨がある。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。然ぞ。  
んと。願ひ。然ぞ。安房上總ハかくの如く。善政愛。やかれど。結城の安危。いまと  
え。大法師が宿願の法筵。那里不成就去。ハ犬集會を私は。不。や。分教す。  
昔年開手結城城秋月春花幾十更白妙の木綿城の庵。雪。年歎。

むき處坦のうは花。あの詩歌の意を知り。欲せば且下回ふ解分るを聽ねか。

第百三十回 食小乘樓。小一僕故主ふ謁モ

話表姚雪與四郎ハ四月十一日。晦昏。一個の伴當と後々。照文門と共侶。小稻  
村の城と四能半一折。近江。港口より船を乗り。下總の市川へ。連り水路をへ。そぞ  
あふたの夜猛可。風波暴れて。幾番となく吹戻され。十二日の曉方。小辛未。上總。京  
木更津。船と歇留。更ふ順風と等しく。走らる。と思ひ。うち。苦工。今もあれ。風  
宜。心ひ。焦燥。陸路を。そ。走らる。思ひ。うち。苦工。今もあれ。風  
だ。復ら。船と。遣る。易易。そ。舟。愁。惱。り。多。弓。と。弦。言。漏。と。傍。又。徒。不  
五六宿の日數と費。ひ。尚。一。霧。時。等。多。と。諫。る。言。の。理。り。無。の。日。と。夫。不  
消。ふ。絶。一。個。の。伴。當。昨。夜。通宵。狂。風。逆。波。ふ。搖。懲。され。ち。よ。苦。と。被。病。

臥く亟の役事達べもあらず。左右まゝ程ふ黄昏時候より漸々風軟びて且追風  
きしんとまゝれども與四郎が伴當へ心地承ぬべう覺ると。飯へゆゑ準備の葉と薦ら  
きてよ甲斐袁迄不果敢々あく飲ぎければ只得陸ふ枝登りて這津は客店ふ留  
め将息させて下總へねぐやを。嵩高工們が還る比まで。他が病着稍瘥さしきが稻村へ送り  
かせと。店小二ふ人保を委ねて又與四郎へ遽く船ふ乗る程ふ既にして日ひ暮す。  
恁而亥中の時候よりして。風ひよく宜一と。嵩高工們の船を漕出へて市川を渡て  
走らる程ふ十三日の朝船果て。這里欣とぞ思ふ市川多美江屋の河岸かに來みれ。與四  
郎の嵩高工們を勞ひ。那伴當の事ども。あづらぬさう。乃裏さと自引提く船より  
出れば嵩高工們へそぞ修漕戻して安房と投ていそ。程ふ當晚又上總さつ。木更津ふ  
舟をよせて嵩工一両名陸ふ登り。那客店ふ赴だ。與四郎が畠め置く。伴當の  
安否と訪ふ。亟ふ瘞り果べもあらず。然ばとく幾でも。恁てあるべくざれ駄りて

のを。あへ。かへ。あへ。あへ。  
かへく船ふ載よ安房へ還らんとひふより。枝けて駆くうち載て次の日の曉天。安房の  
宿所ふ帰着あり。隨即稻村の城へと告ぐ。件の伴の病人を城内へ返り。是より  
與四郎へ風波の障りありといへども恙もうくて市川へ昨日着到を有る。よしの稻村の城へ  
歩えけり。然べ件の伴當へ約莫一旬許を。稍起步るとおれども時日遙ふ歴け  
き。又與四郎が迹を起す。下總へゆづもあらば。有司們も亦與四郎が幾度も市  
川ふ在るべく取ふ。伴當を又那里へと遣毛とも。益々うんと推量りく。始より一月を  
計ふ及づ。只瀧田する音音们ふ水路の障りふ恙きう。與四郎が上箇様多と眞ふ  
ゆえ知せ。音音曳き單節们。驚き且欲ひて日數程経て旅を。市川よるの  
後の事。まほまふ。遠る日と待つ。ひそ思ひけ。向詰休題。余程と與四郎を那日  
依み。宿所ふ赴ひ。姓名と告く對面と請ひ。祈る東人依み。荷船の上乗  
を江戸へ赴き。女房水濛へ香華院へ墓参。とゆえ。留守耳のと陳る。薪

炊の老嫗うなのをふと。篠工しのぎが一個も在ざるれば何を向ふても外々を。已づひよのまよす。  
與四郎よーらうの親兵衛ちんべゑの這里ここを來るや。不思ふしきと目今知る由ゆくて心頻ひんりふ焦燥じょうさいど。東  
人の妻の還もどる。あるまで篠より外ほかよ術じゆあると尋思じゆしとあつ。考くんかくん其首かぶと漫まんりて。  
復もとそ來きると期じと推たぐく退しりぞて大の御おみの神社佛閣ぶつこくを拵そなへと欲ほむ小差さずる都會都會の地ぢ  
あらね。灵場れいじょう古迹こせきの観くわんる處ところも。只幾番ただごく大江屋おほえやの門邊もんへを過くわりて観入くわんにゅうる。小老  
嫗おおばのミホみほにて寂寞さびしき。左右うしゆを程ほど小亭こてい午ご不ふきう。あの時とき亦復また來きて向むかふ。依よひう妻め  
水濱みずは方かた縫ぬい帰宅きたいの折おりれば遼はる遠とほく迎むかへて先まへ與四郎よーらうと客房きやうぼうへ請登うけのぼる。名對面めいたいめん  
見みて茶ちゃと看かんめめどあく。廄官きやうかん待まつ特とくに減へんく。六稔富山ろくじん富山とみやまと親兵衛ちんべゑと衛え享うけれ。值ひと  
遇めぐの縁えん坐すくる隨まことにひ出で。その欽けいびを演ひらる程ほど依よ介すけも亦またから來きつ思おもひけおもく。賓客ひんきつも  
與四郎よーらうとゆ一いちより。船ふねの楊荷ようを篠工しのぎ們もんふ任まつして衣脱更いだくて對面めいたいを送おもてなの口誼果くわいがく。  
乞うひ終おひそびおひそす。あらうけあらうけ。登時とうじ又與四郎よーらう東人夫婦とうじんふめいふうち向むかひ。今番稻村殿いわむらどの

仰あ。照文てうもんと共とも侶えいの親兵衛ちんべゑと召めし復もとる。是はを使つかひ奉たまり送おもてなふ去よ向むかを異ことふ。永  
路ぢとあくふ索さく來きゆ。その事ことの端はより風波ふうはの障さりふ遲滯ぢりの支し。あり地ぢの親兵衛ちんべゑが舊  
里さと立たつ。寄よりよ。もあくんく。思おもひ量りりよ。事ことの情じやうと云いふと告う知し。れ。依よ介すけ。亦  
親兵衛ちんべゑ。皇裏こうりある地ぢから來きて。數日逗留とるの。夏なつの趣き。且また昨きのの朝あさ未明まいめいか。辭さと當  
所ところを立たつ。去よく隣となり地ぢの結城ゆうじやの、大菴おおあんと訪たずひ必ひ七しち大だい士し。逢まつやうのあくんくと。去よ向むか  
いをだだ。のまでも報たまれ。が與四郎よーらう飲くび。あくんく。便びん宜いんを。恨うら。財ざいの我船わいせんの始はじり  
順風じゅんふうをぬ。昨日きの早はや。旦あたふの地ぢをあら。對面めいたい輒たまく。期じお値たざさ。そ悔くや。けれ。非  
如ふ結城ゆうじやか七しち大だい士しの來き會あせむ。とあくくど。大江おほえ和子わこ。十六じゅうろく日ひす。那な里るあ在ゐ。と。是は  
や。既すでに去よ向むかを知し。あくく。長なが坐すわ。無益むえき。今いま結城ゆうじや赴たまぐ。ども。依よ介すけ推すい  
や。そく。又また酷ひど。性せい急いそ。今いまの。中なかの。三さん日ひ。かは。よ。明あさ。朝あさ。京きよ。あら。とも。十五じゅうご日ひ。のと。とも。く  
那里なへ到いたり。多おおきん。寔まこと。おんおん。おん。賓客ひんきつ。と。口く。あくく。の。休やす。還もど。と。和子わこ。お知し。れ。事こと。

せん。風波小水路の疲労もんむ枉て一宿留きゆべと余間の水零が準備の饅を  
りく来て推居く。時分に既ふ過だるふ。物欲とそぞらす。疎飯あられと先箸を  
食せあと給侍ちく。中酒の盃。餚さへ竹筍魚の塩炙竹筍。歯稱與すと炒  
摘し。櫛食庵の町寧ふの届たる手長鰐然。魚米富する饅の目の柱。初胡  
瓜那這株。裝分る。弇と菖蒲西の新茄子根芋のまごすのあく。及夫婦右より左  
より。屢羞ゆく已ざりけ人の好意お與四郎。今ゆ。推辭む。と。是より話説  
も長うきて。伏姫神の冥助靈驗親兵衛が世傳。文武才学大功の妻  
又孫等ぐ。音音がゆ。鬼の單節ぐ。身の幸。富山。神と君との恩恵  
そと有來の方を説誇。依水濱。親兵衛。が。這里旅宿の事の顛末又妙  
真が上。よし。も。出听もあつ。百日の日銷長。思。夙まで。時得り。黄昏近く  
きり。與四郎口得意見ふ。儘て明日と契り。去向を。そを。先結城への便

路と向ふ。依介答て。あの地方より。那里へ十七八里もひん。开と船と。閑宿まで。利  
根河を溯ら。足を勞苦とみて。倒ふと近う。小可送りまわせん。任用。のね。どうふ  
與四郎。然び美く。今宵のあふ明け。悠而次の日の暁天。依介。管工両三名と  
喚覚。出船の準備を。做程。水濱へ亦與四郎。早飯と。羞ゆる。是より  
先か。與四郎の臥房を。漱び。身装衣。家廟と向ふ。房八沼蘭。木王。朝  
ひ。一垂時廻向を。ある。折昨。大準備の金壹両を。分ちて。二裏。うち。と。悄地。贈  
贈て退なげ。事情と原る。與四郎が肚裏。東人夫婦の好意を感して。昨日よ  
ア今朝。も。酒飯の管待。大。く。奴。剩船。と。遙々と。岡宿。を。送り。報ひ  
做。きで。ひ。さんや。然び。と。錢財。那人決して。受。ぐ。今番。猛可の旅を。送  
り。裏ふ。せん。東西も。要。る。よ。事と。尋思。と。見る。贈。贈。一。事。兩。用。そ。件。の。金。を。送  
り。と。その折水濱。心も。つ。程。經て肇て。入。出。け。ふ。裏ふ。寫。せる。姓名。と。疑ふ



点

べくあづられ、心單々感じ已ま。さよ若とくへ  
亦與四郎。大さう、及誠心を口顧感佩あらけ。おち是後の話へ今程未與四郎。  
之そく水零ふ別を告て、依介が儲の船から乗る折ハ尚暗れど、両個の嵩工を依介  
も力と効て、漕程、月落て鴉啼ね。明早天の子河ふ潮りゆく、舟も  
三挺舟約十町あまりや。來ゆんと思ひ、比東を駆くをみけ。然而あの日の下晡か  
一里許下して、**熱燭時候**。今宵は堺の驛る。客店ふ杖を駐ゆく。明ると運  
船の関宿ふ果へ。與四郎の依介们ふ然びと演相別れ。獨陸地をへそめ、続ふ  
あと立ちゆく。連りふ路次とひそぐる。結城まで七里へ身の老くれも尚健也。歩の運家  
撓みき。あの日未牌の左側の結城の城下ふ来よけれ。大法師の草庵と里人們坐尋  
問ふ。知れりとも者きり。且訝り且問ひ。最長ちき城の町を索不娛でぞく程か。  
忽地後方ふ人中て开へ、姚雪主とぞざま。住りゆく。嘯々と聲高す。喚被

僕と與四郎急ふる。是則別人を。豫面善れ。照文が、這回の伴當。ひえ。  
與四郎心欲びく。遠く菅笠を脱て、提て。路程もく。那僕を。走着て小腰を  
折り。莞然か。與四郎ふ告至。主ひ十一郎の這城の町を。歇店ふ在り。老爺に  
過せ。をあそび。喫あせよ。とり氣しが。先迎ふまゆ。卒のと。先小立。古の  
便宜ふ。與四郎の幸あらきと勞ひて。仔細と越よ問ふ及答。案内ふ儘して舊路へ立  
復ると。一町許。照太が宿とせる。歇店ふを来て。と戻す。店の白壁ふ小衆屋を寫  
た。あ。矮樓の一座棟へ。憊而與四郎の草鞋と脱捨脚を濯浴。引て店の傍よ  
軸て矮樓から登り。照太へ。這里ふ在り。宿の姉嬢が汲りて來ぬ。茶を與四郎。薦  
や。外共同宿の客も。次の間。昭文が。夥兵伴當のとを居。方けら。登時。與四  
郎ふ含笑。昭文ふうち向ひ。最早う。蟹崎。王在下。前途の折。那船ふ無  
事。幾程もく。風波暴れて。既に危窮。及び。と絶ふ免れて。上總を。木更津の船

子も。なんからまとあ。ともひとまを。のう。そちらを。さ  
歇留く。次の日の那港口か在り。只一個。す。伴當の病臥する。陸上登て。其頭の客  
店ふ。留め順風と。坐て。十二日の朝市河す。大江屋ふ。赴きて。依介夫婦と。對面せ。親  
兵衛主の従方も。知れ。那人の數日。那里ふ。在り。あ。結城の法會ふ。眞し。十二日の朝未  
明か立去を。と報られ。長談会話。不時移り。東人夫婦が。留められ。只得。那里止  
宿あ。昨日。船り。依介嵩工们。は。関宿。ま。送れ。昨夜。堺の客店ふ。明く。七  
里と走一走。未牌の時候。這城の下ふ。來ゆる。來れど。大法師の菴と。知ら。孫が。  
索難々。氣さへ脚さへ。疲労。まで。ふ困。うち。憶り。も。死。死。身。あ。死。喰  
らひ。ひき。這便宜。る。名。死。身。又。幾。の。回。か。死。ある。地。不。來。あ。る。、大道徳ふ。逢。死。一。族。大士を  
来會せ。れ。族。と。向。を。照文推禁。禁。然。ば。と。且。听。我。も。亦。往。十。日。の。夜。丈。より。  
勁風劇波ふ。漂。ま。れ。船。找。危。す。り。と。辛。苦。十。日。の。下。晡。か。武。藏。下。總。封。疆  
島。西。幽。河。よ。漕。入。れ。ふ。風。波。ふ。心。地。と。損。れ。や。我。身。安。く。立。づ。く。那。河。原。よ。船。公。の。坐

席を。借て。臥く。在り。ふ。その宵料。大江伝ふ。相逢ふ。と。ぬ。て。けれ。隨即館の御詫を  
候へ。御教書と。渡與。し。お。故。へ。箇様。タ。往。候。の。時。宣。け。と。親。兵。衛。が。一路。入  
河。鯉。佐。太。郎。孝。嗣。う。事。及。靈。狐。政。木。う。事。立。か。孝。嗣。改。名。心。操。又。石。龜。屋。次。圓。天  
戸。賀。九。郎。逸。時。と。吉。屋。八。郎。景。能。か。五。十二。太。許。寓。居。の。事。都。て。そ。の。日。の。夏。の。顛。末。一。事  
漏。を。解。示。一。却。親。兵。衛。是。是。ち。の。便。宜。ね。快。素。藤。と。對。治。せ。そ。十二。日。の。晚。天。  
逸。時。景。能。孝。嗣。次。圓。太。郎。三。と。昭。文。が。夥。兵。十。名。の。内。中。才。小。兩。個。と。借。從。て。那  
五。十二。太。素。を。吉。か。准。備。の。船。ふ。うち。乗。り。て。上。總。と。投。て。漕。走。く。一。處。事。の。光。景  
今。見。る。像。く。を。做。と。あ。耳。に。生。れ。ば。與。四。郎。听。笑。局。ふ。入。て。奇。也。くる。と。感。嘆。を  
登。時。照。文。又。を。争。う。然。然。咱。們。大。江。の。船。が。ど。河。原。よ。自。送。り。果。し。よ。更。ふ。去。向。い。を  
れ。が。疾。立。去。ま。欲。す。る。の。る。宿。の。船。公。嵩。工。奴。婢。們。前。夜。の。恩。劇。ふ。駭。怕。と。そ

那地ぬりて在る者。それけん。升と辯せぎて。慌てて。やえなむが。老人の馬役留守を。そ  
日ひと。印う升り。時候。稍早飯と。果たる。夥兵と。伴當们を。立。却。船公余別を  
告。大江並の。一路人们的房錢。までも。送き。還して。千住の方へ。そぞ。豫へ。穗北の御  
士士。水垣。夏初許立。さて。七個の大士們の。ゆき。向を。思ひ。甲斐。く。不知。案内の疎。ま  
と。まも。を。う。要。た。そ。め。ど。お。  
十町許。乃過。始て。人ふ。問。せよ。そも。と。廻。後。そぞ。る。ふ。悔。く。思。べ。且。試。ふ。伴當を。走  
ら。て。より。と。嘘。せ。そ。咱們。と。以下の。兵。毎。路傍。す。茶店。ふ。憩。ひ。て。在。り。心利。う。伴の。若  
黨。直塚。紀二六と。喚。做。る。ふ。意。衷。と。示。し。使。と。課。て。水垣。許。遣。け。る。ふ。ち。と。ひ。と。半。晌  
る。を。紀二六。か。く。來。て。那。黒。の。動。靜。を。報。る。や。小。可。那。御。士。許。赴。た。て。か。使。の。と。さ  
の。あ。か。の。あ。ら。け。ん。一。ち。の。ま。と。う。う。言。示。る。那。七。個。の。大。士。達。の。今。も。逗。留。ま。る。や。と。問。試。一。ふ。知。悉。と。答。て。左。右。き。く。事。の。裏。を。報  
べ。う。も。あ。う。れ。小。可。猜。して。毫。も。礙。談。せ。則。里。見。の。脚。内。人。る。蟹。崎。主。の。使。き。う。と。

詳。ふ。解。示。考。一。之。那。每。の。疑。ひ。釋。けん。水。垣。の。家。は。老。僕。多。一。世。智。人。と。欲。喚。做。る。  
ガ。見。え。ん。も。ひ。で。考。れ。む。ち。の。あ。ひ。づ。ぐ。玄。闇。不。立。止。小。可。ふ。う。ら。向。ひ。情。を。ふ。報。る。を。蟹。崎。主。の。御。姓。名。の。豫。知。か。り。く。隠  
き。だ。も。ひ。を。尋。ゆ。千。大。士。の。春。よ。ら。久。く。あ。處。逗。留。と。在。せ。う。が。結。城。居。、大。廟。の  
法。會。ふ。う。で。值。ん。と。今。朝。早。天。四。月。十。三。、ち。き。か。の。ち。あ。む。残。二。猛。可。中。風。の。大。病。也。半。身。不。遂。ひ。ば。餘。之。七。の。那人。々。と。俱。ふ。結。城。や。く。と  
ゆ。き。の。只。小。生。们。一。兩。名。大。士。達。と。一。里。ま。う。送。り。そ。方。僅。還。り。と。の。本。紀。二。六。あ。る  
と。そ。ね。る。治。開。ひ。胸。苦。」と。御。病。厄。早。の。平。愈。と。新。り。と。昭。文。君。命。と。件。の。法。會。居。持。ふ  
訪。ひ。ま。う。ゆ。の。よ。宜。く。稟。し。み。却。、大。廟。ハ。結。城。也。那。方。不。ひ。ま。よ。向。ひ。世。智。介。然  
い。ひ。多。比。小。生。ハ。大。士。使。を。業。り。那。草。庵。ハ。詰。か。も。故。も。て。、大。道。德。ハ。面。談。ハ。仕  
ら。金。本。意。き。か。う。本。ひ。れ。事。蒙。朧。ハ。似。る。の。う。件。の。庵。ハ。城。下。ふ。あ。ま。乾。淨。る

茂林中ふ締樹。木柴門。と那精舍。かく見。地方ふ知る者稀。され。索難を  
免。遊莫城下より西のよき。約莫十町許。又。只那嘉吉の古戰場。と同せ。多  
少。紛れあらず。と紀二六。おろぬ果て走りか。倭々と。咱们。報。亦復言  
便宜。とゆ。倭々。這夜。糟壁。客店。明。次の日早。宿。連。路  
次。どのそ。程。晡時。比及。す。多。地。來着。一件。嘉吉。古戰場。人。回  
る。紛れも。既。而。説。れる。茂林頭。來ゆ。程。料。一個。法師。遇。因  
我。又。その。法師。大庵。と。同試。法師。答。开。这里。遠。も。樹。枝  
深。れ。迷。ひ。人。愚僧。も。那。里。來。も。這。方。來。も。先。立。導。三町。許  
果。と。樹。枝。の。間。ある。處。締。草。の。草。糞。わ。け。登。時。法師。咱。們。を。を。索。る  
大庵。則。這。里。で。候。と。咱。們。歩。早。め。找。近。歎。び。演。を。法師。り  
候。お。身。樹。蔭。入。と。あ。忽。地。不。え。ま。り。あ。け。倭。而。咱。們。紀。二。六。呼。門

お。找。入。縁。頬。の。障。子。開。く。坐。席。才。九。尺。過。前。回。六。尺。許  
ま。佛。壇。不。笈。佛。坐。の。中央。一。個。地。坑。開。席。薦。五。枚。布。儲。庵。主。佛  
壇。の。邊。透。端。坐。大。塚。大。山。犬。川。大。阪。犬。田。大。飼。犬。村。の。七。賢。士。面。識。う。る。識。が  
る。も。左。右。二。側。不。坐。占。在。居。談。闌。う。れ。怨。恨。咱。們。を。珍。一。卷。と  
た。ク。不。片。寄。席。讓。れ。登。時。咱。們。固。坐。入。大。川。大。阪。犬。村。们。初。對。真  
口。誼。互。不。疎。う。だ。ス。犬。田。大。飼。い。就。中。大。塚。大。山。大。石。禾。以。來。恙。う。る。再。會。  
祝。一。祝。され。却。今。番。當。精。舍。の。法。會。不。就。龍。田。稻。村。両。館。の。御。代。香。仰。付。元。參  
向。の。事。の。顛。末。瀧。田。老。侯。年。來。の。御。本。意。不。稱。せ。り。死。欽。分。趣。と。大。法。師。ふ。僊。連  
事。の。趣。又。河。鯉。守。如。お。子。孝。嗣。の。事。亦。賊。婦。船。虫。媼。内。が。事。善。惡。成。敗。箇。様。々。

倭々の少佐とその崖略と解示されて、大法師と兵侶が別後の動静と問れ、うが。咱們則大江の奇談那人富山は老侯の危難と拯ひなり。その事の始より伏姫神の冥助靈験和殿夫婦両個の娘婦達再生の天助善報両個の孫三出生の奇異洪福又那神餘滿呂安西牛來人復五郎九云四郎南弥六隊半們が帰服の事兩館の仁政四家老の良佐言乃素藤が叛逆義通君の内躬泥妖尼妙椿が幻術小至るまで都て大江が智勇大功君臣の得失素藤と恩赦並ぶ再叛の為体。且妙椿が幻術りく親兵衛と遠離する反間の事の趣清澄討ひの大將を奉りて館山の城を攻伐とも全功(まみど)とおさけた。二度の厄難と姫神擁護の示現。館の疑ひ解きをめじてゆく親兵衛を召かし。且七個の大士們の在処を索めてねて來よと。和殿と咱们の招會の使と命ぜられ自他の去向と異ふと。水路をひそめ事の崖略約定までの數箇條は既と和殿の知る如く。

一事も漏さず告知。さて又咱们の両圓河原ぞ。大江が逢ひけるその宵の首尾孝嗣次國太卿云が事。靈狐政木が奇特の忠告。又向水五十三大素の吉逸時景能們の来歴の箇様々々懸念と解示。大江へ素藤誅伐。御教書と賜ひ。孝嗣立次國太卿云逸時景能們を相伴ひての晩天小五十三大素の吉古が準備の快舟ふうち衆で館山を投て漕走す。ち別路の終焉と詳く告へ。庵主はゆく七個の大士とく馬嘆く感佩せむとゆめ。大江の上和殿們の事死中生めとけ伏姫上の神恩靈應我君御父子の賢明武徳。又今やふも仰び钦びあまつて感涙の找たゞ孰も覺対せむ歎唱涯りき。當下咱们へ、大法師と両館の御誕と偕へ且七個の俊傑の御教書を遞與へばれべ大士們俱ふ受載。在下們の年來貴命を辭ひあり。時至づる故き。宿因齊一義兄弟。其臭足せざれを。乃ある春ふ至り。大阪毛野が蓬を治。七名また聚令が。獨大江親兵衛が存亡死活を知り。され世不慨を嘆り。吾

あふえうつ。かくうこく。妻あま。妻あま。妻あま。  
 あふ。豈料んや那神童。伏姫神の冥助。世四郎音音。そを娘们。ま。皆他ゆも守  
 く。傳考。六稔富山養れ心術さ。身長さ。大人備う。ゆゑあま。君侯御父子ふ仕へま  
 で。莫太の功あらん。思ひを負ひ。柄我們七名。六稔以来百折千磨の窮屈難苦哉。  
 凌ひて恙きり。皆姫神の冥助。と。感激の外ひ。ま。れも勞苦の事。ゆき。一  
 人の功あら。孰う九歳の總角。親兵衛ふ恥ずん。升と明君の垂木を。今又御書と  
 賜り。招をあへ倒ふ面目ふ似て面伏し。羨當惑仕は。と異口同様。うち陪話。と。咱  
 らな。きさ。賜り。招をあへ倒ふ。も。き。うけうづま。おくどう。や。うけうづま。おくどう。  
 人們。听々。慰め。然る。宣ひ。そや躬達時。あり。榮辱遲速。ゆくとも。個の大主。甲乙。ナ。そ  
 中。大江生。二字の王。と。ゆく。甲斐。一仁進て。餘の七行を道等。本。生の自然の道理。老  
 侯。との義を感悟。あ。當館。も亦。御同意。今。一大士。と。ゆく。かの如火。功あり。大江。ふ  
 聚合。大。関の東。敵。や。ある。と。ゆく。多。と。一日。も。二秋。ふ。異。う。ぎ。の。義。と。思。ひ。う。ぎ。と。云  
 廬。主。も。俱。ふ。諫。そ。蟹崎。生の意見。の。理。あ。挫僧。行脚。二十餘年。辛くして忠孝七  
 パトセアリ。

初の玉を。繋る。元。尚。闕。处へ。仁。の一。玉。大。江。の。在。处。を。知。り。え。を。う。歎。た。の。と。在。り  
 け。る。那。人。既。や。安。房。よ。在。り。挫。僧。他。と。導。す。れ。ど。伏。姫。神。の。引。接。て。君。の。御。用。あ。達。た。  
 が。我。ね。で。ち。わ。り。て。ふ。異。う。ぎ。の。理。り。と。推。と。先。の。素。是。分。身。同。因。果。る。八。士。ふ。前。後。輕  
 重。あ。ん。や。开。と。本。ゆ。る。功。功。を。と。上。廢。貶。を。と。大。江。大。功。の。賞。と。と。と。と。と。と。と。と。  
 主。ふ。言。え。を。と。敵。の。反。向。ふ。中。ら。れ。て。遠。く。他。御。退。け。れ。一旦。疏。客。と。き。り。一。日。の。始。より。と。功  
 負。か。あ。を。と。と。思。ひ。け。れ。車。ひ。と。と。君。侯。の。ん。疑。ひ。解。し。と。あ。召。う。ま。く。の。客。と。是。同。日。の。お。沙  
 沢。各。と。連。速。す。造。化。の。默。契。か。の。如。人。智。ふ。量。り。か。う。局。と。恥。る。要。言。を。と。あ。  
 害。と。諭。其。七。大。忽。地。胸。豁。け。俱。ふ。微。笑。て。現。衡。て。と。あ。や。ま。く。風。親。兵。衛。大。功。は。我  
 生。拘。と。館。山。の。城。と。抜。く。裏。一。と。と。俱。ふ。貌。を。改。め。詫。意。業。り。な。り。及。法。會。果。真。道  
 德。と。俱。と。安。房。ま。あ。り。て。年。来。の。恩。招。と。謝。一。と。と。仔。細。り。が。と。齊。一。畏。り。を。

稟一。登時咱们庵主向。今番兩館より寄き。御香奠たり。先布施の料  
物。わ。目今遞與。ある。せん。と向。庵主の頭。掉て。お屋の。まく。さす。如小庵  
あれ。然る東西を措く。處。御香奠の供。娘の折塔前。備。なり。布施物の事果て。後  
食人。乞食。取。始且預け。あ。せん。僧。あ。春當所。か來て。草の庵を縮び。よう。念  
佛の外。あ。地の人。と。言語を交。ことある。然れど。今日。珍客。七大士。和殿。一。雲。時。勤  
修。し。よ。え。鉢を。歩。聞談せざる。と。ゆ。され。憶。む。時。を。寝。て。既。ふ。黄昏。及。ぐ。今宵。六  
七。共。侶。か。且。旅亭。か。退。て。大後日。朝来。會。あ。大念佛の結願。十六日。已牌。へ。松僧  
這回の大法事。へ。惟。書。見。殿。の。祝。與。あれ。當地の城主。結城氏成。朝。王。か。告。知。せ。ば。况。そ。の  
下。な。城内の。土庶。や。城下の寺院町。人们。よ。幫助。請。ひ。參。縁。も。せ。ば。是。本來の。直。回  
日。六。の。年。來。の。情。願。と。送。の。意。衷。へ。異。日。聲。ま。る。小庵。多客。と。宿。一。か。う。と。そ。罷。出。る。む  
や。と。生。家。氣。質。の。飾。り。免。示。教。か。大。家。諾。る。ひ。告。別。ひ。共。侶。ふ。城。下。の。町。へ。退。づ。け。僕。て。咱

们。は。柴。門。の。外。面。ふ。第。一。す。夥。兵。と。伴。當。と。從。て。七。大。士。と。俱。は。這。里。未。來。那。這。主。宿。と。擇。  
隔。昨。の。夜。分。より。遠。小。衆。屋。の。矮。樓。あ。在。七。大。士。們。の。法。會。の。折。の。礼。服。整。を。モ。昨。日。も。  
藩。町。を。錦。紗。店。より。絹。多く。買。合。ひ。刺。縫。と。誂。る。ど。程。あ。一。美。玉。日。と。銷。一。光。  
去。底。ふ。七。個。の。大。士。們。へ。和。殿。の。便。宜。と。穿。一。身。他。も。必。ち。地。ふ。走。下。不知。案。内。あ。て。大。庵。  
索。難。め。の。ゆ。あ。ん。這。裏。で。他。と。多。い。よ。漫。引。を。做。事。六。夕。路。を。遇。ふ。も。う。一。先。  
那。庵。卦。と。前。日。の。旅。び。と。票。を。ば。か。ま。京。錦。紗。店。中。も。立。り。て。衣。裳。の。刺。縫。を。催。促。先。  
ち。い。じ。を。午。飯。と。果。と。運。立。て。半。夜。を。起。算。が。我。們。王。僕。の。詞。敵。も。う。り。ナ。あ。徒。  
然。あ。堪。ざ。れ。這。矮。樓。を。那。寢。下。の。身。の。只。單。外。夏。の。人。往。復。と。稍。久。く。うち。長。觀。て。在。り。け。  
程。ふ。和。殿。ふ。似。る。旅。客。の。像。忙。ふ。過。る。わ。戴。た。笠。深。れ。面。安。定。不。正。無。也。被。る。來。  
衣。の。染。色。と。背。と。袖。と。花。號。と。首。金。の。折。認。記。あ。要。す。べ。と思。ひ。ふ。早。伴。當。を。考。ら。  
矣。趕。せ。う。一。か。巢。て。錯。至。大。山。坡。あ。六。大。士。們。も。程。を。か。う。來。を。時。候。も。且。甘。坐。て。考。ら。

まどうちをきく。爰ふ。すき。すみ。すみ。すみ。  
寛は珍重をと祝し。其の告る。長談脩話を長とも思ひ。耳を敵する。與四郎。屋點  
頭。听果て貌を更む。且歎ひ演じ。言膚爛く。今番大吉之招會。既度之命  
られ。既鼻在下るもの。既身の國王譜第の脚家臣在下。亦道邊即り。舊僕深く。新  
故者卑の差るをあく。且死身の手本大吉を招む事ある。水火を避け。諸國を偏歷  
度。系泊びよ。這回在下先もて。大江も逢ひ。六七の大吉。脚誕を慶ぶ。既身の才ふ脚代會  
役の主を本意。うん余事皆序次。階級も。是も亦伏姫神の神謀ふぞ。在下  
既使と奉り。大江ふね逢ひ。既身は後れ。大ま回會を。既  
ど異日道節们は相惧て。安房へ還る。此上覗面。望足して。ひと謙退する。誠心を照文  
連り。感嘆して。餘談を及ひ。浩處。信乃道節。井ノ毛野大角現。小文吾们的。七  
大士共。侶か。す。階子を徐々登り。齊一坐席に入。折し道節の逸早く。與四郎を  
況え。既世四郎。然恙。身を好。そ。多れ哉。向て。信乃們。眞

坐と占れ。あり餘の大士信乃莊介現人と小文五郎。荒井山と相識。ひき。認。魚毛野  
大角も姥雪人。とゆ。一。是。つ。とぞくふ。或。再會の情義を演。或。初對面の歎びを舒。を。  
ゑ。與四郎。只額。傷忘。て。坐。感涙の找むと覺。照文さ。五。意。と。猜。七。先道節。們。ふ  
篤々と。與四郎。赤水路。風波の障。却市河。赴。依。夫婦。親兵衛。妻。高。と  
あ。地。と。歩。路次。を。下。來。あ。見。照。參。が。出。て。招。喜。大。高。と。頤。ふ。旅宿事の趣  
又。親兵衛。が。ま。解。示。る。條。と。告。れ。道。節。餘。天。尚。と。ひ。び。よ。き。  
與。四。郎。の。頭。と。始。げ。て。恭。あ。先。道。節。か。う。朝。ひ。と。絶。て。久。た。見。參。わ。善。あ。を。と。り。を。す。  
缺。ひ。短。と。詞。あ。聲。ま。う。ゆ。ひ。と。小。可。音。音。兩。個。の。媳。婦。い。ぐ。再。生。の。告。返。遊。蜂。崎。と。  
告。ゆ。て。知。召。れ。ま。と。言。省。ひ。ん。左。あ。右。あ。伏。姫。神。の。寘。助。あ。生。る。身。の。幸。と。恩。  
あ。の。只。心。苦。と。君。先。あ。を。り。富。山。を。出。始。よ。料。ら。ど。幽。主。御。父。見。參。入。り。ま  
で。脚。持。下。み。召。措。剰。今。番。蠻。崎。主。と。兵。侶。侍。大事。の。と。使。奉。り。ひ。鄙。諺。

やせらひ。すた  
ひ瘦馬。過る荷峯の高。猶も重威嚴命の免れを悉く。ある故に江腹子。俱そ  
生世の那日より數えねども我通稱の世四郎の世と與ふ改めて。與四郎と喚れ。是を惶うる君  
が名衆。忠の與の一宇と賜り。心操ゆひ。傍れば君づ御名代。身の逸早く安房。在り。世  
四郎。君づ名の一字を戴く。名頭を故。とぞ。齊。思僕が本性。あら義を饒まし。  
り急と繰返を。道節听く。感嘆して。通愛。忠義の用心。我名の一宇。所望。儘え。  
左も右の。同。四郎の與を改めて。代の字み做。即我代の義あり。又與の字も  
捨て。今よりて。姚雲。岱四郎。與保と名。告うね。保。則。諧平の諧。と。這那。同訓。負。共。あ  
昔。忘。誠心。後。識者。示。足。不。備。傍。今。以。能。和。老。里。見。殿。事。明。輩。况。我。八。名。招。委。副。使。と。雪。日。上。來。置。該。負。御。詠。妙。御。教。書。克。裏。蠻。崎。生。虎。賜。之。美。後。更。今。入。席。高。低。論。せ。も。あ。べ。廻。蠻。崎。主。歸。國。折。あ。美。と。以。兩。館。既。孰。成。と。願。あ。主。身。餘。感。淚。復。禁。

やあへま。照文どれをうちゆそり。趣誠ふ尔へ都てきるふと應とす。六士門も果斷愛え  
道節が意観と好とを諾ひけ。然び是より與四郎の通稱の字を改む。姥雪代四郎與保  
名告るゆき道節と主僕の礼儀を失。親兵衛竝餘の大士ともひよきを敬ひ。却て  
折ふ小文五郎代四郎を慰め。荒芽山にて曳き草節と。赴失ひ折ゆ。又親兵衛と他們一家が  
六稔富山ふ神の加護。听つ。隨ふ云々。とひも先づ莊介们。蔵太る孝禪。舊と語。新と  
言の交り果てのるを信乃へ制ゆ。道節と俱ふ照文を告ゆ。我們今月も、大慶を赴る。  
庵主の勤行暇ある折。一霎時相譚ひうち。听ゆ。と不思議のゆひ。知る。如く、大法  
師。今眷法事ふ。他の施主と未だ當地の寺院を報て宗門の帮助と借んと欲せ。只是獨  
坐一念。稱名看経の外。他事無り。昨日黄昏時候。年三十有餘。法師の徒。第八  
九名と從へ来て。大法師は談む。杜僧。這結城。其甲の院の住持。聞く庵主の嘉  
言のむ。當城没落の折戰歿ある。大將士卒幾万の忠義の靈魂菩提の與ふる春よりと



數十日常念佛間断。那諸靈魂。七日。本月の十六日供養と遂。本日供養の石塔婆。什麻せきせのやうに。准備ある。庵西のまふ相応。巨石あり。昔其頭が細流あり。時土房の架。右橋。今埋れて土中。在り。是爲主のせひ。石あれ。造りそ石塔婆。做素宜。召俱。徒弟の内中。石工の技を做も。任用。巨石と。且取。叮寧。來意。示して。石。祭。赴。持。來。鋤。秋。金。穿。起。三尺。許。果。と。長。八。尺。青。石。四。回。五。六。尺。石。兩。三。隻。あ。徒弟们。是。穿。牛。水。汲。下。土。洗。流。通宵。塔。婆。為。速。有。曉。時候。不。文字。送。形。果。造。即。庵。主。指揮。請。樹。棟。原。程。處。件。石。塔。婆。立。け。細。精。妙。只。一夜。分。落。成。奇特。庵。主。敬。馬。感。衆。僧。勞。茶。薦。金。給。與。大。道。よ。も。喫。を。供。養。折。復。來。告。別。皆。共。侶。か。か。去。と。ぞ。大道。

德の件の奇特を。我們。解示して。建。石。塔。婆。と。を。あ。ふ。實。是。丸。作。意。權者。所。為。要。因。て。我。每。商。議。す。今。番。兩。館。よ。寄。ま。み。布。施。物。遠。路。故。代。金。要。庵。主。素。も。參。欲。あ。と。せ。然。當。充。東。西。要。多。然。當。充。半。分。多。甘。甲。寺。師。徒。十。口。ふ。是。施。安。又。其。半。分。あ。と。米。古。易。錢。小。免。下。り。施。物。布。く。と。是。本。願。寺。金。要。庵。主。告。旨。向。試。あ。大。師。飲。大。喜。と。至。あ。美。宴。奉。至。庵。崎。寺。生。商。量。て。寺。相。計。ひ。ぬ。能。と。ひ。足。餘。日。可。れ。か。さ。ふ。米。穀。經。紀。と。錢。鈔。と。免。肆。店。立。よ。と。信。を。と。吩咐。立。程。き。あ。下。あ。と。義。相。計。ひ。く。と。寺。れ。照。文。諾。と。齋。咱们。大。庵。赴。折。奇。法。師。案。内。寺。也。あ。それ。次。ゆ。及。欲。訝。一。見。象。代。四。郎。奇。經。紀。们。を。立。程。あ。の。日。暮。那。錦。繁。店。う。昨。日。七。大。寺。説。言。暗。衣。裳。刺。縫。都。下。來。け。け。又。米。穀。經。紀。免。錢。見。大。寺。指。揮。從。そ。注。管。言。者。各。一。名。小。廝。張。燈。秉。來。け。照。玄。大。寺。門。を。商。量。て。布。施。物。代。料。百。金。と。兩。個。折。却。五。金。法。會。助。る。わ。

とひ。那法師們の布施未だ残る五千金と又分ち。三千金並施米の價を遣。一千食錢を兑て來  
莫。す。あきらかに。昌。大。也。か。の。から。不。り。と。た。ろ。ね。ん。う。そ。を。う。か。う。も。  
も錢も明の朝辰牌か、大庵を送れ。そ。那庵ある地方を。町寧。お誨えば。兩個の注管。あ。昌。墨。  
う。ね。う。け。と。て。ぐ。お。昌。と。多。あ。昌。あ。よ。ち。う。金をと受食あり。其處で。俱。宿所。退。り。下。當。又。照文。大士们と相計。施。行。儀。  
好。く。お。も。あ。く。遺。迹。あ。知。要。詔。表。を。正。す。わ。ん。て。猛。可。五。六。す。る。紙。牌。百。枚。許。施。行。の。う。を。  
書。を。寫。ま。る。か。入。三。れ。が。時。と。糧。ま。立。地。拠。寫。果。と。照。文。隨。即。伴。當。と。夥。行。們。ふ。も。吟。吟。下。る。宵。件。の。報。  
條。路。傍。草。樹。幹。を。ど。或。町。の。門。柱。貼。け。あ。の。餘。明。易。書。餉。と。店。小。二。あ。る。る。き。て。見。焚。  
坐。と。詫。え。る。又。燒。香。の。折。用。を。在。兩。邊。の。席。を。ど。翌。朝。開。お。買。せ。ん。准。備。送。き。整。程。資。物。  
夜。暮。が。短。く。て。寝。向。む。わ。し。明。あ。り。懲。而。照。大。大。士。們。へ。俱。ふ。浴。湯。一。梳。り。早。食。果。と。干。餘。個。の。主。  
僕。歌。店。を。立。ち。、大。庵。へ。赴。往。畢。竟。金。碗。、大。法。師。三。干。餘。年。の。宿。金。成。就。先。亡。追。福。大。念。佛。  
結。願。供。養。光。景。の。像。ど。う。ぶ。載。れ。猶。詳。ふ。知。ち。欲。甚。开。り。又。這。下。の。圓。解。分。る。ぞ。聽。終。が。

南總里見八犬傳第九輯卷之十七終

